

“もはや災害レベル”の暑さで始まった9月、次々と襲う大型台風により運動会は大幅な変更を余儀なくされました。今年最後のサッカー・バスケット大会、学習発表会、持久走大会などの大きな行事が毎月のようにあって、ほかにも農業体験や社会見学、観劇会におもちゃフェスティバルなどの学年行事と、この4か月は毎日がジェットコースターに乗っているようでした。短い秋が過ぎて、気がつけばもう冬至です。



あわただしく濃密な4か月を過ごした正則の子は、一段とたくましく成長しました。自分の名前を漢字で書けるようになった1年生、九九を間違えずにいった2年生、3年は初めての社会、理科、4年は初めてのクラブ活動で、新しい学びがありました。5年生は…、「毎日がクライマックスです！（担任談）」常に挑戦するクラスです。6年生は行事そのものはもちろんですが、その準備や片付けで存在感を示しました。最高学年の背中は、正則小の誇りです。

さて、師走になると1年を振り返る番組がよく放映されますが、今年は平成最後の師走ということで、平成の30年を振り返る特集をよく目にします。個人的には、携帯が爆発的に普及したかと思ったら、あっという間にスマホに取って代わられたことが印象に残っています。地震や津波など大きな災害が起こり、人知の限界を思い知らされたこともありました。平成がどんな時代だったかは、後世の歴史家が判断するでしょう。また、この30年を生きた人にとって



では、就職・結婚・出産・子育てなど、人生そのものだったかもしれませぬ。ただ、正則の子にとっては「ぼくが生まれた時代」「私が子どもだった時代」となります。

「昭和」生まれで「昭和」育ち、「平成」が終わるとともに職を退く者にとっては、新しい時代の到来は目がくらむほどまぶしく感じられます。そこは、目の前の正則の子が未来へ羽ばたく場所です。ちなみに、職場でも職員の4割

は「平成」生まれとなりました。次の時代で正則の子を導くのは、彼らです。

今100歳の方は大正7年の生まれです。91歳の方は昭和元年の生まれです。元号をなくしてすべて西暦でという議論もあるとか。でも、社会科の歴史年表の「～時代」とあるような時代のイメージには、そこに生きた人たちの足跡を感じます。来る「??時代」に、目の前の若者と正則の子が、どんな足跡を残すか、わくわくしながら見届けたいと思います。もちろん、自分ももう少しだけ、そのお手伝いをしていきます。（生涯現役のつもりで(笑)。）